

鳥沙嶺頂
の祁寒

を西走す、只鶯窩山石灰溝間のみ右岸に築設せらる。鳥沙嶺は六盤山に次ぐ高嶺にして海拔約七千三百尺の高さを有し、夏時尚ほ冷氣を覺ゆと。正午嶺頂に達するや、時に溫度十三度を示しぬ。此嶺路は其の南坂(坂上)は緩なるも北坂(坂下)は稍々急にして、之を下れば甚だ狹隘なる安定谷地を經、行程約十三里、龍口關に停る。

雪山麓の
牧畜

從僕の逃
亡

安定附近に五葉松林並に雜木林を見しは珍とすべく、又雪山麓に牧羊牛の多きは奇異に感せり。是日鎮羌驛にて晝食の、後從僕劉潤(西安知縣の周旋者)の姿を失す。惟ふに彼は行旅の困難、前途益々甚だしきを觀じ、機を見て逃亡したるものならん。支那の下人、殊に臨時雇の從僕には有勝の事なれば、敢て怪しむに足らざるなり。予は豫め萬一を顧慮し、彼には日々の小使錢の外、決して前渡などせざりしが故に支給被服の外に損害は寡少なりし。戯に、

沿路幾多清濁水

西來東去不曾留

濯纓濯足隨宜處

原是黃河同一流

萬里長城
の沿革

『焉知萬里連雲色、不及堯階三尺高』と詞人をして嘲笑せしめし萬里の長城は、人皆秦の始皇の創築に係る所と思へるも、實は始皇が創意に非らず、又秦時に完成し